

氏名	鈴木 茂
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博乙第 1930 号
学位授与の日付	昭和 63 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学位論文題目	EXPERIMENTAL STUDIES ON THE PRESUMPTION OF THE TIME AFTER FOOD INTAKE FROM STOMACH CONTENTS (胃内容物から食後時間推定に関する研究)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 中山 沃 教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

法医解剖における胃内容物の検査は、死者の生前の状態を知る上で極めて重要であり、事件を解明する上に数多くの手掛かりを与えてくれる。本研究は胃内容物から死後経過時間を推定するための参考所見を得る目的で、各種のモデル実験を行った。人工胃液を用いた各種食物の消化速度の比較実験では、肉より魚の方が消化が速く進行した。犬による各種食物の消化実験では、時間の経過と共に胃内残留量は減少したが、8時間後でも約36%が残留し、条件によってはかなり長時間胃内に食物が留まる可能性を示した。犬の胃内食物の残留量と食物の形状変化とは必ずしも比例せず、8時間後約半分位に消化されたものと、ほぼ元の形のものが混在していた。造影剤を混じた食物の胃内残留量についての実験では、5時間でほぼ全量が排出された。また、アルコールの影響について調べたところ、5時間後非飲酒時に比べてやや多く残っていた。犬の胃内における死後消化実験では、夏期のように温度が高ければ肉片は腐敗と共に死後消化がある程度進行するものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、胃内容物から食後時間推定に関する種々の手法を用いた詳細な研究をしているものであるが、従来ほとんど報告が行われていないこの関連分野について、人工胃液による肉より魚の方が消化が速く進行したこと、犬を用いた実験では胃内食物の残留量と食物の形状変化とは必ずしも比例しないことなど多くの興味ある知見を得ている。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。